



平成17年(2005年)
10/1
第1085号

発行：小平市
編集：都市経営部
秘書広報課
〒187-8701
小平市小川町二丁目
1333番地
☎042(341)
1211(代表)

市報 こだいら



この秋、美術鑑賞は
平櫛田中館で

小平市ホームページ <http://www.city.kodaira.tokyo.jp> 電子メール info@city.kodaira.tokyo.jp こだいらテレホンガイド ☎042(342)1222



第30回

みんな集まれ! 小平市民まつり

10月16日(日) あかしあ通りで

ふるさと小平の秋を華やかに彩る、恒例の小平市民まつりは、小平市民まつり実行委員会が主催し、小平市と小平市民憲章推進協議会が後援して、多数の団体の協賛・協力により、10月16日(日)にあかしあ通りを舞台として盛大に繰り広げられます。

わたしたちのふるさとづくりを目指し、18万市民が心をひとつに、交流と触れ合いの輪を広げる市民参加の楽しい催しです。ご家族で仲間、みんなそろって秋の一日を満喫してください。

詳しくは、5・6面をご覧ください

◆市長として
小平市は私が10歳の時に市制が施行され、今年で43年目を迎えたことになりました。

前半は人口急増期と経済成長期が同時進行し、都市としての基盤整備に追われた20年で、後半はそれらの基盤を地域に根づかせ、そして安定させ市民との融合を図った20年でした。

だれも想定していなかった証券会社や銀行の倒産など、国際競争力がもたらしたさまざまな現象は、私たちの身近なところへも押し寄せてきています。

労働市場の開放は、伝統的な終身雇用の終えんと海外への進出で、もの

◆真の豊かさ
そんな中、本当に幸せな暮らしとは何かを求める気運が高まりつつあります。

私は高度成長期に何でもかんでも合理的で近代的なものを受け入れすぎたのではないかと思えます。古くても良いものを再評価し、発展させ、地域に活力を呼び戻したいのです。それは顔の見える関係を築き、老若男女がそれぞれの役割を担う協働社会の具体化です。

小平市長 小林 正則



市制施行記念日を迎えて

◆変化と進歩
世の中は常に変化しております。従来の行政主導型でなく、また市場原理にすべてゆだねるものでもない、18万市民一人一人が行政運営の主役になれる社会を目指さなくてはなりません。

そのためには決定構造に参画し、自ら実行する「市民自治型」の社会を築くことです。

づくりの空洞化が顕著になりました。

IT社会に象徴される情報技術の進歩は、現役世代の私でさえついていくのに四苦八苦の状態です。便利で豊かな反面、不安と恐怖を覚えることさえあります。

地域社会、家族間のコミュニケーションが崩壊し、I

◆刻々と変わる社会
今日の社会は、人類史上例を見ない速さで変化しています。そのスピードは百年単位の変化のように感じます。

スペースシャトルディスプレイバリでは、日本の宇宙飛行士野口聡一さんが堂々と乗り込み、船外での補修活動を行うという、まるで夢の世界を見ているような現実があります。

かつての米ソの冷戦構造の枠組みでの国際社会の崩壊から加速度的に世界は変わりました。

これからも市政に対してご支援とご協力を切にお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。